

平成26年度 長崎県立島原商業高等学校 学校評価表（自己評価）（最終評価）

校 訓	礼節・友愛・創造
学校教育方針	<p>全生寮教育を通して「自他一如の精神（心）」を養い、知恵と勇気と行動力を備えた人間性豊かな人材を育成する。</p> <p>(1) 商業（ビジネス）及び家庭に関する豊かな教養と、専門的知識・技能を兼ね備えた有為な人材の育成</p> <p>(2) 人権に対する正しい理解と知識を深め、基本的人権を尊重する人材の育成</p> <p>(3) 自主的な生活態度と、責任を重んじる人材の育成</p> <p>(4) 文武両道を兼ね備えた、心身共に調和のとれた人材の育成</p> <p>全生寮教育とは、如何なる状況の中でも身を処して誤らない行動の基準を、集団（学校）生活の中で体得するものである。</p> <p>【全生寮本旨】</p> <p>1. 自己のうちに もてる全てを 発揮して 生きよう</p> <p>1. 全ての 他の人を 生かそう</p> <p>1. 全ての 人とともに 生きよう</p>
学校教育目標	<p>(1) 商 業 科 ビジネスの基礎・基本の能力を身に付け、経済社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>(2) 情報処理科 ビジネスの基礎・基本の能力を身に付け、情報化社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>(3) 家 政 科 生活に関する専門知識と技術を身に付け、生活産業分野に貢献できる人材を育成する。</p>
本校の生活信条	<p>○ 挨拶（島商）しましょう。（心をつなぐ） ○ 掃除（島商）しましょう。（心をこめる） ○ 勉強（島商）しましょう。（向学心をもつ）</p> <p>○ 部活（島商）しましょう。（心身を鍛える） ○ 奉仕（島商）しましょう。（思いやりの心をもつ）</p>
前年度の成果と課題	<p>(1) 学校全般については、全生寮教育を本校の根幹と位置づけ、継続的・組織的におこない問題点を洗い出し、より良い方向に改善できるようにする。また、三年間継続した指導を全職員で行うために、ホームルームや授業でも折に触れて話をしたり、学校行事等で礼法指導を徹底する。</p> <p>(2) 定員確保については中学校訪問を積極的に行い必要に応じて学科説明会を中学校に呼びかけ、わかりやすく教育内容を説明するなど、選ばれる島商を目指していく。また、企業訪問を積極的に行い進路先の確保を実現する。</p> <p>(3) 学習活動については、各教科の課題提出について指導を徹底し、家庭での学習を最低でも毎日1時間は行う習慣をつけさせる。</p> <p>(4) カウンセリングについては、今後も学年団・他分掌との連絡連携を密にして、早期発見、早期対応を心掛けていきたい。また、外部の専門講師を招いて研修を行い教職員の資質向上を図る。</p> <p>(5) 各種検定については、今年度の反省を受け、授業や補習等の改善をおこない、わかる授業を旨とし校内研修会を積極的に実施して教員の資質向上を図る。</p>
本年度の重点目標	<p>(1) 基本的な生活習慣を身につける</p> <p>(2) 本物の学力を身につける。</p> <p>(3) 部活動に積極的に参加する。</p>
モットー 「誠心誠意」	<p>○正直な心と思いやりの心を持とう</p> <p>○些細なことでも手を抜かず心を入れてやろう（挨拶、掃除の徹底）</p>

評価 4 : 十分達成している 3 : おおむね達成している 2 : どちらかという達成されていない 1 : ほとんど達成されていない

【評価分野】 1 学校経営								
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	評価者	成果と課題
①学校教育目標	学校教育目標の具現化	学科に即した目標を設定し、教職員の共通理解のもとに目標を達成するための教育活動を行う。	商業科・・・ビジネスの基礎・基本の能力を身に付け、経済社会に貢献できる人材を育成する。	1	3.1	3.1	全職員	教科書の中での学びだけでなく、民間講師招聘授業など、社会の様子など学ぶことができた。
			情報処理科・・・ビジネスの基礎・基本の能力を身に付け、情報化社会に貢献できる人材を育成する。	2	3.0	3.1	全職員	3年生はシステム設計からプレゼンまで、例年と遜色ない成果が得られたが、2年生については少し心配な面がある。
			家政科・・・生活に関する専門知識と技術を身に付け、生活産業分野に貢献できる人材を育成する。	3	3.1	3.0	全職員	コースそれぞれの授業を通して生活産業に直結した能力が養われた。
②学校経営方針	経営方針の明確化とその実践	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	教育方針や教育目標等を生徒・保護者・地域等に説明したり、情報を流し、宣伝したりする機会を設け定員確保に努める。	4	2.9	3.1	全職員	オープンスクールを始め、昨年度よりも積極的な広報を行った。意欲ある生徒が集うような活動が今後も必要である。
			各教職員が経営方針を意識して教育活動を展開する。	5	2.9	2.9	全職員	経営方針に沿って教育活動が展開された。
③学年経営	学年目標の具現化	1年 島商生としての自覚を持ち学校生活にうまく適応させる。	全生寮教育を通して基本的な生活習慣を確立させ、高校生活への適応力を養う。	6	3.0	2.0	1学年主任	全生寮後の全職員での取り組みが必要である。
			進路に対する意識を高め、早期に進路目標を決定させる。	7	3.0	4.0	1学年主任	キャリアノートを活用した。
		2年 中堅学年としての自覚を促し、人格の陶冶に努めさせる。	日々の授業や家庭学習の充実を図り、学力向上に努めさせる。	8	3.0	3.0	2学年主任	家庭学習調査は一定の効果があったが、相対的に家庭学習の定着度が低い。
			個人面談や保護者面談を通じて、早期に進路目標を決定させ、その実現に向けて努力させる。	9	3.0	3.0	2学年主任	職場実習・進路ガイダンスの効果もあり、進路実現の意識が高まった。
		3年 最高学年としての自覚のもとに、創造力に富む心豊かな人間性の涵養を図る。	規則正しい生活の中で主体的に考え行動する自主・自立の精神を養う。	10	3.0	3.0	3学年主任	最高学年としての自覚を持ち行動ができた。
進路指導の充実を図り、能力・適性を生かした進路選択を指導・援助する。	11	3.0	4.0	3学年主任	12月中に全員の進路先が決まり、指導・援助の成果が出た。			
④学級経営	学級目標の具現化	学校目標や学年目標に沿った学級づくりを行う。	学校目標や学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、学級経営を行う。	12	3.2	3.1	担任・副担任	学習時間の記録や教科書等の持ち帰りなど、家庭学習の意識付けと定着を目指し継続して指導ができた。

【評価分野】 2 教育活動								
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	評価者	成果と課題
①教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善ならびに適切な学習指導	各教科で効率的な学習を実践する。	毎日、1時間以上の家庭学習を習慣化し基礎学力の向上を目指す。	13	2.2	2.2	全職員	生徒に興味・意欲を持たせるような授業・課題を工夫したい。
			毎学期、ICTを活用したわかりやすい授業を実践する。	14	2.8	2.8	全職員	ICTを活用した授業で生徒の理解も深まった。
		三年間を見通した目標を設定し、計画的な高資格取得を目指す。	各種検定の合格率を上げ、全商検定1種目以上1級を取得させる。	15	2.6	2.5	商業科 全員	全員が1級を取得するところまで至らなかった。
			家庭科検定の合格率を上げ、被服・調理・保育検定で1種目以上1級を取得させる。	16	3.0	3.5	家政科 全員	2名1級を取得できなかったが、他は全員なんらかの1級を取得した。
			英語検定・漢字検定の合格率を上げる。	17	2.8	2.6	英語・ 国語科 全員	英語検定2級の合格率を上げることができなかった。
②特別活動	HR活動や生徒会活動・学校行事の充実	生徒自信による自発的な活動を実践する。	各ホームルーム委員の積極的活動と校内外における一人一役を推進する。	18	2.9	3.0	正副担任	各自担当の役割を全うした。
			生徒会・家庭クラブ活動を活性化して、地域行事やイベント等に積極的に参加する。	19	3.0	3.5	生徒会 主任・ 家政科 主任	清羅祭では、それぞれのクラスで独自性を出した活動ができた。
③生徒指導	基本的な生活習慣の確立	全生寮教育の充実を図り、全教職員による継続した指導を徹底する。	授業の折には必ず礼儀作法・服装・学習態度（遅刻時の指導も含む）など具体的指導に努める。	20	3.1	3.2	全職員	一部の生徒の指導を今後とも根気強く行いたい。
			交通ルールの遵守と自転車の二重ロックの徹底に努める。	21	3.0	4.0	生徒指導主任	生活委員が定期的に点検し、自転車の二重ロック率は、ほぼ100%であった。
④進路指導	個々の生徒の能力・適性を生かす進路指導の充実	三年間を見通した効果的なキャリアガイダンスを実施する。	生徒、保護者への進路ガイダンスの実施と充実を図る。	22	3.0	3.1	担任・副担任・進路指導	進路時期に応じた効果的なガイダンスを実施する必要がある。
			生徒、保護者への進路情報をこまめに提供する。	23	2.8	2.9	担任・副担任・進路指導	その都度というほど、こまめな情報提供にはいたらなかった。
			新たな進路先（企業・大学）の開拓を図る。	24	3.0	3.0	進路指導部主任	進路開拓のため企業との信頼関係を構築したい。

⑤健康・安全教育	健康や安全に対する態度の醸成	健康・安全についての正しい知識と理解を深める。	健康診断など保健行事を円滑に実施し、生徒の理解に努める。	25	3.0	3.0	保健環境部主任	予定通りに実施できた。
		心身の健康の保持増進を実践できる生徒を育成する。	担任・部顧問・カウンセラー部との連携を図り、早期問題解決にあたる。	26	3.0	3.0	保健環境部主任	さらに連携を深めていくように努めていきたい。
⑥人権教育	人権尊重に対する普遍的価値観の醸成	人権尊重に関する様々な課題を認識させ、解決のための実践力を身に付けさせる。	人権教育の学習を通し、全生徒・職員の意識を高める。	27	3.0	3.0	カウンセラー主任	生徒には年2回、職員には年1回の研修を実施した。
		カウンセリングの充実	生徒理解のための諸検査を実施し、個別面談に活用する。	28	4.0	3.0	カウンセラー主任	今年度よりシグマ検査を実施し、総合的な診断ができるようにした。クラスごとに臨床心理士への相談会も実施した。
	カウンセリングマインドを持って生徒の相談に応じる。		担任・他分掌・学年との連携を密にし、いじめやメール等の嫌がらせ・不登校の根絶を図る。	29	3.0	3.0	カウンセラー主任	年3回のいじめ・被害調査を実施。担任・顧問・学年主任・生徒指導主任と連携をして解決努力した。
⑦特別支援教育	特別支援教育体制の整備	特別な教育的支援を必要とする生徒に対する支援体制の充実を図る。	校内委員会の設置、支援教育コーディネーターを中心に、必要に応じて職員の指導力の向上を目指して研修を実施する。	30	3.0	3.0	カウンセラー主任	島原特別支援学校より講師を招き、職員研修を実施。気になる生徒に関しては、検査を行い対応を検討した。
⑧部活動	部活動の活性化	部活動の計画的かつ効率的な活動を目指す。	「全員部活動の日」の定着と部活動の活性化を図り、各部の実績向上を目指す。	31	2.0	2.0	生徒会主任	部活動に来ていない生徒に対して顧問がしっかり関わってほしい。
【評価分野】 3 組織運営								
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	評価者	成果と課題
①校務分掌	適切な役割分担・組織的な活動と運営	各自の役割分担を明確にして、適切に仕事を処理する。	校務支援システムを有効に活用し仕事の負担軽減を図る。	32	2.8	2.5	各分掌主任	本年度まで従来のシステムを用いた。来年度から全面的に活用したい。
			学校全体の校務が円滑に推進できるように、分掌相互間の連携を図る。	33	2.7	2.8	各分掌主任	毎週分掌会を実施し、連携を深めた。
②各種委員会	目的に応じた適切な委員会の設置とその運用	各種委員会の活動の効率化と活性化を図る。	各種委員会での協議結果を、教育活動や学校経営に生かす。	34	3.0	2.9	各分掌主任・学年主任	委員会で仕事の量の差がある。
③校内研修	研修体制の確立と実践	職員研修の充実を図る。	全員、年に1回以上はICTを活用した授業を公開する。	35	2.5	2.8	全職員	学期に1度は実施できなかった。
④教職員教育	教職員の資質向上への取り組み	教育センター等の研修に積極的に参加する。	各種公的研修会へ積極的・計画的に参加し、資質の向上と意識改革を図る。	36	2.4	2.4	全職員	地区研修会には参加しているが、センターなどの研修会にあまり参加していない。

【評価分野】 4 教育環境								
①学校環境の整備	潤いのある生活環境・教育環境の整備	清掃活動を通じ、協調性や奉仕の精神を養い、創意工夫の心を培う。	全校生徒、全教職員で積極的に清掃活動に取り組む。	37	3.3	3.3	全職員	毎日の清掃活動、全校生徒職員ともに積極的に活動した。
②施設・設備の管理	施設・設備の安全管理と経費の節減	施設・設備の有効活用を図り、安全点検等の管理を適切に行う。	施設設備の安全点検を計画的に行い、必要に応じて改修や補修を行う。	38	3.5	3.3	事務室	予算内で必要な改修や補修を行うことができた。
			水道・光熱費、通信費等の節約に努める。	39	3.5	3.0	事務室	昨年度より節約できた。次年度も今年以上に経費節減を進めたい。
③情報インフラの整備・充実	教育活動全般の情報化	情報機器等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンとプロジェクターを使いこなせるように努力すると共に、教科指導などに活用する。	40	3.0	3.2	全職員	昨年度よりも全職員で取り組んだ。
	ホームページの更新	学校の情報発信源とし、PRの手段とする。	ホームページを見やすくし、定期的に更新し最新情報を伝達する。	41	4.0	4.0	教務主任	リアルタイムの更新を心掛け、年間を通して最新に保てた。
【評価分野】 5 開かれた学校づくり								
①保護者との連携	PTA活動の充実	積極的に学校を開放し、地域からの信頼と理解を図る。	本校の教育活動を積極的に公開し、保護者や地域から信頼と理解を深める。	42	3.0	3.0	教務主任	行事ごとに保護者に多数来校して頂いた。
		PTA活動を活性化する。	PTA総会や諸活動への参加率を上げる。	43	3.2	3.2	正副担任・学年主任・教務主任	行事ごとに多くの保護者の参加をいただいた。
②地域や関係機関との連携	学校間の連携の充実	他校や異校種との効果的な連携を図る。	県内の大学、近隣地域の高校・中学校との情報交換や連携を図る。	44	2.0	3.0	教務主任	もう少し積極的に連携を図っていきたい。
	外部講師の招聘	外部講師を効果的に活用する。	地域の人材を専門教科やHR等において効果的に活用する。	45	3.5	4.0	学科主任	民間講師招聘事業を通して地域の人材を活用した。
	学校評議員との連携	学校評議員会を充実させる。	運営方針等学校評議員の意見を聞き学校運営に反映させる。	46	4.0	4.0	学校評価委員	年2回学校評議員会を実施し、これからの島商についてのアドバイスを頂いた。

【総評】

評価の結果 (課題と問題点)	(1) 全生寮教育を通して基本的な生活習慣の確立を目指し指導を行っているが、時間の経過とともに上級生になるにつれ全生寮本旨の意識が薄れている。2年・3年生の指導も含め、指導のあり方について考える必要がある。
	(2) 定員確保については、教務部を中心に積極的に中学校訪問を行い体験入学の内容を検討したりクリアファイルなどを作成してPRに努めたが、結果的に目標の120名確保に届かなかった。なぜ、定員に満たなかったのか原因を分析し、次年度に向け対策を講じたい。
	(3) 家庭学習時間の不足が問題となっている。基礎学力が不足している生徒に対して、どのようにして自主的に学習に取り組むべきか、学習を続ける力を引き出すための工夫が必要となっている。ICTを活用した公開授業については、引き続き次年度も行い、わかる授業の推進に取り組みたい。
	(4) 不登校生徒について、生徒・保護者が医療機関の受診やカウンセリングを受けたにもかかわらず、医療機関との連携や対応について校内での役割分担が出来ず、結果的に担任まかせの所が見られ負担が大きくなった。
	(5) 大学科商業の各種検定の合格率および全商検定1種目以上1級取得の評価が良くなかった。
来年度の改善策	(1) 基本的な生活習慣を身につけさせるために全生寮のあり方を再考し、2年・3年生でも意識できるような指導を全職員で取り組んでいきたい。
	(2) 定員確保に向けた取り組みについてこれまでのやり方にとらわれないようなアイデアを出し合って実際に行動する。
	(3) 家庭学習の充実と基礎学力の向上については全職員が危機感を持っている。具体的に何をやっていくか議論を深め、共通認識の元に実際に行動する。
	(4) 不登校生徒に対する組織的な対応と情報をどのように共有化するかを検討し、職員研修を積極的に実施して教員の資質向上を図る。
	(5) ICTを活用した公開授業を積極的に推進し、教職員が切磋琢磨する環境作りと資質向上を図る。

平成26年度 長崎県立島原商業高等学校 学校評価保護者アンケート集計結果

回収率	1年 100%	2年 100%	3年 100%	全体 100%
-----	---------	---------	---------	---------

I 以下の1～18について、次の評価基準により該当する数字を評価欄に記入してください。

評価基準

4: そう思う(あてはまる)	3: どちらかというと思う(ややあてはまる)
2: どちらかというと思わない(ややあてはま	1: そう思わない(あてはまらない)

項目	番号	内 容	1年	2年	3年	全体
1 教育活動	1	本校の教育方針や努力目標はわかりやすいものになっている。	3.3	3.1	3.3	3.2
	2	子供は全生寮宿泊研修で養った精神を日頃の学校生活で活かしている。	3.1	2.8	3.2	3.0
	3	子供は社会のルールや本校のルールを良く守っている。	3.3	3.2	3.4	3.3
	4	子供は地域のイベントやボランティア活動に意識して参加している。	2.6	2.7	3.0	2.8
	5	子供は積極的に部活動に参加している。	3.7	3.4	3.5	3.5
	6	本校では、容儀・マナー・あいさつや言葉遣いなどの指導は十分行われている。	3.5	3.1	3.4	3.3
	7	本校は子供に関する保護者の相談にきちんと対応している。	3.3	2.9	3.2	3.1
2 学習活動	8	子供は授業が分かりやすいと言っている。	2.8	2.5	3.0	2.8
	9	子供は進路や資格取得など目標を持って学業に励んでいる。	3.2	2.9	3.3	3.1
	10	子供には日頃から家庭学習を行うように声をかけている。	3.1	2.7	2.9	2.9
3 教育環境	11	本校は教育に必要な施設・設備が整っている。	3.2	2.9	3.1	3.1
	12	子供は環境問題に関心があり、ゴミ減量やリサイクル運動等を意識して取り組んでいる。	2.9	3.1	3.0	3.0
	13	本校は清潔で清掃が行き届いている。	3.4	3.2	3.4	3.3
4 開かれた学校	14	本校の施設は保護者や地域に開放されている。	3.1	2.9	3.1	3.0
	15	本校は学校の様子や諸行事に関する情報を家庭や地域にきちんと提供している。	3.2	3.0	3.2	3.1
5 その他	16	PTA活動や学校行事に進んで参加している。	2.7	2.7	2.8	2.7
	17	子供は明るく生き生きとした学校生活を送っている。	3.3	3.2	3.4	3.3
	18	子供は学校での出来事を家庭で話してくれる。	3.3	3.0	3.3	3.2

平成26年度 長崎県立島原商業高等学校 学校評価生徒アンケート集計結果

I 調査対象者数 343名
 II 調査回収率 99.40%
 III 評価基準 各質問に対して、

4: そう思う(あてはまる)	3: どちらかというと思う(ややあてはまる)
2: どちらかというと思わない(ややあてはまらない)	1: そう思わない(あてはまらない)

項目	番号	内 容	1年	2年	3年	全体
1 教育活動	1	あなたは島商の努力目標やモットー(誠心誠意)を念頭に置いて行動している。	2.7	2.7	3.0	2.8
	2	あなたは「あいさつのできる学校日本一」を目指し、積極的にあいさつを行っている。	3.3	3.2	3.3	3.3
	3	あなたは全生寮宿泊研修で養った精神を日頃の学校生活で活かしている。	2.9	2.8	3.1	2.9
	4	あなたはルールやマナーを守り、容儀や言葉遣いなどをきちんと行っている。	3.2	3.0	3.3	3.2
	5	あなたは日頃から周囲や相手のことを思いやって生活ができています。	3.1	3.1	3.2	3.1
	6	あなたは地域のイベントやボランティア活動に意識して参加している。	1.9	2.2	2.4	2.2
	7	あなたは部活動に熱心に取り組んでいる。	3.4	3.0	3.2	3.2
	8	先生方は生徒が校則違反をした時、きちんと指導している。	3.4	2.9	3.3	3.2
	9	先生方は親身になって何事にも相談にのってくれる。	3.0	2.4	2.9	2.8
	10	島商は進路に関する情報を提供してくれる。	3.2	2.9	3.2	3.1
	11	島商では命を大切にす教育や人権・平和教育が行われている。	3.4	3.0	3.3	3.2
	12	島商ではボランティア活動など地域と交流する活動が行われている。	3.2	2.9	3.2	3.1
2 学習活動	13	あなたは進路や資格取得など目標を持って学習に励んでいる。	3.2	3.0	3.2	3.1
	14	あなたは家庭学習を1日60分以上行うよう努力している。	1.9	1.8	2.1	1.9
	15	島商の授業は工夫がなされ分かりやすい。	2.5	2.4	2.7	2.5
	16	島商の授業では教科書以外の補助教材や教育機器等が活用されている。	3.0	2.7	2.8	2.8
	17	島商では適性・進路に応じたコースや科目を選択する指導が行われている。	3.2	3.0	3.0	3.1
3 教育環境	18	島商では教育に必要な施設・設備が整っている。	2.8	2.5	2.9	2.7
	19	島商は清潔で清掃が行き届いている。	2.9	2.7	3.1	2.9
	20	島商では健康や安全に関する指導が行われている。	3.0	2.8	3.2	3.0
	21	あなたは環境問題に関心があり、ゴミ減量やリサイクル運動等を意識して取り組んでいる。	2.9	2.8	3.1	2.9
4 他その	22	島商の生徒会活動は生徒が中心となって運営している。	3.1	2.8	3.1	3.0
	23	あなたは学校の出来事を家庭で話している。	2.8	2.8	3.0	2.9

1 評価の実施期日・場所等

- (1) 第1回 平成26年7月 2日(水) 本校校長室
- (2) 第2回 平成27年3月 4日(水) //

2 学校関係者評価委員

- 大場 雅夫(学校評議員と兼務) 出席
- 林田 新吾() //
- 伊藤 昭美() //
- 佐原健太郎() //

3 学校関係者評価の内容

(1) 自己評価の結果について

○各項目の具体的方策や評価が適切に行われているかという点については、4段階評価で「学校経営分野」は4.0、「教育活動分野」が3.95、「組織運営分野」が3.95、「教育環境の整備・活用分野」が3.89、「開かれた学校づくり分野」が3.5であり、概ね適切であったと思われる。

(2) 自己評価の結果を踏まえた今後の改善策について

○自己評価の結果を踏まえた今後の改善策が適切であるかという点については、4段階評価で「学校経営分野」が4.0、「教育活動分野」が3.95、「組織運営分野」が3.9、「教育環境の整備・活用分野」が3.8、「開かれた学校づくり分野」が3.65であり、適切であったと思われる。

(3) 学校の重点目標や自己評価の評価項目について

○「学校の重点目標が適切に設定されているか」という点については、4段階評価で4.0、「自己評価の評価項目が適切であるかどうか」という点については、4.0であり、適切であったと思われる。

(4) その他

- 島原警察署から自転車の二重ロックモデル校としての感謝状を頂いたことはとても良かった。
- 行事等に参加して、生徒と先生方の関係や雰囲気がとても良いと感じた。
- 27年度入試で定員割れしたのは残念であった。商業科・情報処理科・家政科の将来について、具体的に知らせる事が大切ではないか。